



(糸魚川)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 木簡の釈文・内容

新潟・前波南遺跡 せんなんみみなみ

所在地 新潟県糸魚川市大和川字前波

2 調査期間 一 一〇〇六年(平18)四月～八月、
二 一〇〇七年四月～八月

3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

4 調査担当者 一 春日真実、二 石川智紀

5 遺跡の種類 一 集落跡、二 散布地

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

前波南遺跡は、前川右岸の海岸砂丘と丘陵間の沖積低地に立地し、標高約4m。古墳時代と古代を主体とする溝、ピット、杭、旧流路などを検出した。居住の痕跡は検出できなかつたが、古墳時代や古代における低地や河川の利用方法の一端が窺える。

木簡は各年度一点ずつ出土した。一〇〇六年度調査

8 木簡の釈文・内容

(1) 「出雲」 (108)×23×2 059

上端は山形で、下端は欠損する。八世紀後半～九世紀の土器とともに出土した。

一 一〇〇七年度調査

(1) 「出雲真山」 172×25×3 051

スギ材を板目取りしたもので、長方形の材の左右を削り、下端を鋭角に尖らせる。「出雲真山」は人名か。「出雲」の字体は、福井県越前町田中遺跡出土墨書土器(九世紀前葉)の「出雲」に似る。当木簡も平安時代の所産か。伴出した木材の放射性炭素年代測定の結果からも古代に帰属すると考えられる。

釈文にあたっては、田中一穂氏、島根県立古代出雲歴史博物館の森田喜久男氏のご教示を得た。

において、弥生時代から中世にわたって形成された旧流路から一点、一〇〇七年度調査において、溝(SD1)が調査区中央の旧流路と合流する付近から一点、計二点が出土した。

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団「一般国道8号 糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書III 六反田南遺跡 前波

南遺跡」(新潟県埋蔵文化財調査報告書二〇二、二〇〇八年)

(春日真実・石川智紀)



二(1) 赤外

木簡研究 第二六号

卷頭言—「全国木簡出土遺跡・報告書総覽」刊行に寄せて 小林昌二

二〇〇三年出土の木簡

概要

平城

京跡

左京

三条

三坊

二坪

法華寺

旧大乘院

庭園

藤原京跡

右京

北辺

平城

京跡

右

寺

南方

遺跡

鳥羽

遺跡

・鳥羽難波宮跡

東福寺

常樂庵

庫裏

中世

勝龍寺

飛鳥

神

遺跡

右

寺

南方

遺跡

難波

宮跡

(1)

大坂

城跡

久宝寺

遺跡

兵庫津

遺跡

玉津

田中

遺跡

北村

廃寺

有岡

寺

城跡

・伊丹

郷町

遺跡

明石城

武家

屋敷跡

対中

遺跡

入佐川

遺跡

永福寺

清

寺

跡

北

条

泰時

・時

頼耶

跡

永福寺

清

寺

跡

北

条

泰時

・時

頼耶

跡